

科学技術振興に関する国の方針

科学技術基本法に基づく政府の「第4期科学技術基本計画（平成23～27年度）」平成23年8月閣議決定

I 基本認識

今後の科学技術政策の基本方針

- ① 「科学技術イノベーション政策」の一体的展開
- ② 「人材とそれを支える組織の役割」の一層の重視
- ③ 「社会とともに創り進める政策」の実現

II 将来にわたる持続的な成長と社会の発展の実現

震災からの復興、再生を遂げ、将来にわたる持続的な成長と社会の発展に向けた科学技術イノベーションを戦略的に推進

- ① 震災からの復興、再生の実現
- ② グリーンイノベーションの推進
- ③ ライフイノベーションの推進
- ④ 科学技術イノベーションの推進に向けたシステム改革



III 我が国が直面する重要課題への対応

国として取り組むべき重要課題を設定し、その達成に向けた施策を重点的に推進

- ① 重要課題達成のための施策の推進
- ② 重要課題の達成に向けたシステム改革
- ③ 世界と一体化した国際活動の戦略的展開



IV 基礎研究及び人材育成の強化

重要課題対応とともに「車の両輪」として、基礎研究及び人材育成を推進するための取組を強化

- ① 基礎研究の抜本的強化
- ② 科学技術を担う人材の育成
- ③ 国際水準の研究環境及び基盤の形成



V 社会とともに創り進める政策の展開

「社会及び公共のための政策」の実現に向け、国民の理解と信頼と支持を得るための取組を展開

- ① 社会と科学技術イノベーションとの関係深化
- ② 実効性のある科学技術イノベーション政策の推進
- ③ 研究開発投資の拡充



科学技術イノベーション総合戦略

平成25年6月閣議決定

2030年の我が国のあるべき経済社会の姿の実現を図るとともに、現下の喫緊の課題である経済再生を強力に推進するため、以下の5つの課題について、重点的に取り組む

- ① **クリーンで経済的なエネルギーシステムの実現**
 - ・クリーンなエネルギー供給の安定化と低コスト化 等
- ② **国際社会の先駆けとなる健康寿命社会の実現**
 - ・健康寿命の延伸、次世代を担う子どもの健やかな成長 等
- ③ **世界に先駆けた次世代インフラの整備**
 - ・レジリエントな防災・減災機能の強化 等
- ④ **地域資源を「強み」とした地域の再生**
 - ・農林水産業の強化、地域発のイノベーション創出 等
- ⑤ **東日本大震災からの早期の復興再生**
 - ・地域産業における新ビジネスモデルの展開 等



日本再興戦略

平成25年6月閣議決定

成長への道筋

民間の力を最大限引き出す

- ・産業の新陳代謝とベンチャーの加速
- ・規制・制度改革と官業の開放の断行

全員参加・世界で勝てる人材を育てる

- ・女性が働きやすい環境を整え、社会に活力を取り戻す
- ・若者も高齢者も、もっと自分の能力を活かしていきいきと働ける社会にする
- ・日本の若者を世界で活躍できる人材に育て上げる

新たなフロンティアを作り出す

- ・オールジャパンの対応で「技術立国・知財立国日本」を再興する。
- ・世界に飛び出し、そして世界を惹きつける

成長の果実 国民の暮らしへの反映

徳島県科学技術振興計画

平成11年 「徳島県科学技術振興ビジョン」を策定
 平成20年12月 「徳島県科学技術振興計画」を策定

主な取り組みや動き

- 平成15年～ 文科省知的クラスター創生事業の実施地域に指定以降、世界レベルの糖尿病研究開発臨床拠点の形成を目指す「徳島健康・医療クラスター構想」を推進
- 平成17年3月 「LEDバレイ構想」を策定
- 平成20年6月 「徳島県立総合大学校」を創設
- 平成22年1月 「糖尿病臨床・研究開発センター」を徳島大学に設置
- 平成23年5月 「とくしま地域産学官共同研究拠点」を設置（徳島大学産学官連携プラザに本部拠点を、工業技術センターにサテライト拠点を設置）
- 平成24年4月 6次産業の振興を支援する「徳島大学農工商連携センター」を設置
- 平成25年4月 工業技術センター内に「LEDサポートセンター」を開設
- 平成25年4月 新たな「農林水産総合技術支援センター」を開設

平成26年3月 徳島県科学技術振興計画を改定

改定趣旨

日本再興戦略等の国の成長戦略に対応し、「21世紀の徳島づくり」の強力な推進エンジンとなる科学技術振興の将来像や方策を明らかにする

基本目標

『科学技術によりとくしまの未来を拓く』

基本方針

- ① 産業振興を科学技術振興の「重点ステージ」に位置づけ
- ② 徳島の強みと特徴を磨き伸ばす
- ③ 地域課題の解決を通じた競争力の強化
- ④ 県民が科学技術に親しみ、人材が集い育つ環境づくり

戦略的推進分野

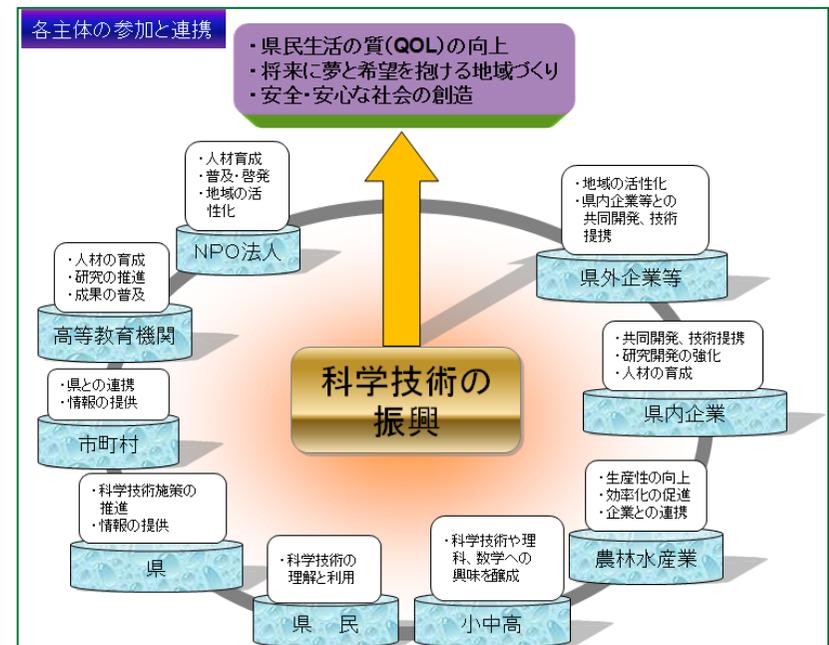
- ① ヘルステクノロジー
- ② LEDテクノロジー
- ③ フードテクノロジー
- ④ エネルギーテクノロジー
- ⑤ ロボットテクノロジー

本県の「強みと特徴」

連携・融合

基盤技術の強化

「ものづくり技術」「ICT技術」
 「高機能素材関連技術」



本県における科学技術振興に関する最近の主な実績

情報・工業技術分野

LED



全国初 歩行者用信号機の完全LED化

- ◎ 徳島県立工業技術センター
 - ・ LEDトータルサポート拠点として、用途を拡大する企業との共同研究や共同開発、新製品や高付加価値製品を市場に送り出すための支援機能を発揮

- ◎ 日本フネン（株）、徳島県警察本部、徳島県立工業技術センターが共同開発した「歩行者信号機用LED電球」により実現

ICT



全国屈指の光ブロードバンド基盤を、地域の課題解決手段として、積極的に利活用



- ◎ 「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」
ICT企業や映像関連企業を過疎地域の古民家に誘致
平成26年3月12日現在、19社が参入
- ◎ 平成25年5月全国4K祭inKamiyamaにおいて、CATVを活用した4K伝送実験を実施

エネルギー分野

県自らが率先して自然エネルギーの導入を促進するため、県営の「太陽光発電所」を建設



マリニア沖洲
太陽光発電所

出力
2メガワット



和田島
太陽光
発電所
出力
2メガワット

- ◎ 県内のメガソーラー発電所は、民間発電所も含め、平成26年3月11日現在で28カ所において計画・稼働中（県把握分）

農林水産業技術分野



新たなブランド豚「阿波とん豚」の開発

- ◎ 徳島県立農林水産総合技術支援センター
 - ・ 農林水産分野の「知の拠点」として、研究・教育・普及機能を集約し、新たに開設

- ◎ DNA情報を活用し、イノシシの特性を受け継ぐ交配選抜を行う
- ◎ 平成25年10月5日販売開始



健康・医療分野

糖尿病の克服と新事業の創出を目指す「徳島健康・医療クラスター構想」の推進

- ◎ 製品クラスターでは、血管内皮機能検査装置（FMD）等の診断・検査機器や、スタチ果皮・ワカメ等の成分を活用した健康食品等を開発
- ◎ サービスクラスターでは、ヘルシー弁当・スマートランチ、ICTを活用した健康情報の「見える化」による糖尿病予防サービスの開発



開発された健康食品

人材育成分野

スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）を拠点校として、積極的な理数教育の実施

- ◎ スーパー・サイエンス・ハイスクール
理数科目に重点を置いたカリキュラムの開発等で、科学技術に繋がる理数教育を重点的に推進し、有望な科学技術系人材を育成する事業



科学の甲子園徳島県大会

- ◎ 「科学の甲子園徳島県大会」や「国際科学オリンピック国内予選」への出場を通じ、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばす取り組みを実施

今後の科学技術振興の方向性（案）

地域が直面する課題

過疎化・少子高齢化による人口減少への対応

南海トラフなど大規模災害対策

産業空洞化による雇用状況の悪化への対応

「TPP」時代における国際競争への対応



など…

今後、地域を巡る状況はますます厳しくなることが予想される

こうした局面を打開し、本県の発展につなげる対策が必要

その強力なツールとなるのが、「**科学技術**」



理数科目は、
苦手だなあ…



一方、科学技術に関する身近にある課題として…



取っつきにくいし、
難解だ…

若年層の理科離れ

科学技術に関する関心の低さ

など…

社会全体での「科学技術の振興」に関する気運醸成が必要

「**挙県一致**」により、産学民官が連携した「**徳島ならではの**」新たな科学技術イノベーションを展開
「**県民目線**」による的確なニーズの把握と、次なるシーズを探求することにより、新たな「**価値の創造**」へ

本県の科学技術振興を束ね、その方向性を示す「**羅針盤**」が必要



科学技術振興
に関する計画

理数・科学教育
に関する計画

試験研究機関における
研究開発に関する計画

など…

【提案】徳島県科学技術憲章（仮称）の制定に向けて

憲章の方向性

1

子どもからお年寄りまでが科学技術を理解し、
利活用できる社会づくり

◎ICTなど情報リテラシーの向上
◎医療や介護分野での利活用 など
生活に密着した科学技術の日常的利用



2

未来を切り拓く「科学技術」領域における人材育成

◎理数系教育の充実
◎指導者の養成
◎サイエンスイベントなどの普及活動 など
子ども達の関心を高め「未来の科学者」の育成



3

科学技術振興における、企業・教育機関・
研究機関・県民・行政などの産学民官の役割分担

◎連携強化による情報・目標の共有化
◎シーズの速やかな実用的技術への応用
◎相乗効果による技術の価値の向上 など
新技術創出に向けた全県を挙げた環境の整備



4

本県の有する「地域資源」や「潜在力」を積極的に
活用した科学技術の振興

本県の「強み」を活かした
◎新たなキーテクノロジーの創出
◎既存技術の新分野への展開 など
「徳島ならではの」科学技術施策の展開



など…



科学技術の振興でさらなる地域の課題解決へ

県民の身近な
取り組み

企業活動を
バックアップ

先端技術の
創出